

第1問 取引の仕訳を答える問題である。

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	建物	5,500,000	当座預金	8,000,000
	修繕費	2,500,000		
2	売上	50,000,000	損益	50,000,000
3	支払利息	80,000	手形借入金	5,000,000
	当座預金	4,920,000		
4	支払家賃	200,000	現金	800,000
	差入保証金	400,000		
	支払手数料	200,000		
5	旅費交通費	11,800	未払金	11,800

1. 有形固定資産を修繕したときの仕訳を問う問題である。

〈POINT〉 資本的支出・収益的支出

- ・修繕費のうち建物の価値を高めるための支出を資本的支出といい、建物の取得原価に加算する。

(借) 建物 5,500,000

- ・修繕費のうち建物の機能維持のための支出を収益的支出といい、修繕費勘定（費用）で処理する。

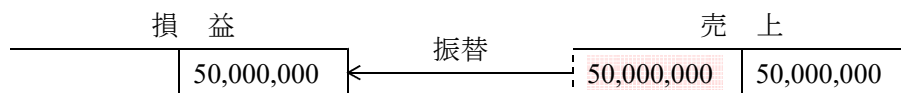
(借) 修繕費 2,500,000

- ・小切手を振り出して支払ったので貸方は右記の通りとなる。 (貸) 当座預金 8,000,000

2. 決算振替仕訳のうち、収益の勘定を損益勘定へ振り替える仕訳を問う問題である。

(第2問の解説の「確認」参照)

〈POINT〉 振替仕訳



- ・最初に売上勘定の借方に¥50,000,000 記入する。

(借) 売上 50,000,000

- ・次に損益勘定の貸方に¥50,000,000 記入する。

(貸) 損益 50,000,000

3. 約束手形により現金を借り入れたときの仕訳を問う問題である。

〈POINT〉 手形借入金・借入金

- ・ 約束手形を振り出し、¥5,000,000 を借り入れたので (貸) 手形借入金 5,000,000
- ・ 利息を差し引かれたので (借) 支払利息 80,000  
 ※金銭を借り入れたときの利息であるから支払利息で処理する。
- ・ 残額が当座預金口座に振り込まれた。 (借) 当座預金 4,920,000

4. 建物の賃貸借契約を結んだときの仕訳を問う問題である。

〈POINT〉 敷金の支払い

- ・ 1 か月分の家賃を支払った。 (借) 支払家賃 200,000
- ・ 家賃 2 か月分の敷金を支払った。 (借) 差入保証金 400,000
- ・ 家賃 1 か月分の仲介手数料である。 (借) 支払手数料 200,000
- ・ 現金で支払った。 (貸) 現金 800,000

5. 旅費の精算に関する仕訳を問う問題である。

- ・ 全額を費用として処理したから、旅費交通費勘定 (費用) で処理する。  
 (借) 旅費交通費 11,800
- ・ 従業員が立て替えて支払っており、月末に従業員に支払う義務があるから、貸方は未払金勘定 (負債) で処理する。  
 (貸) 未払金 11,800

※従業員が立て替えて支払ったので、従業員立替金と勘違いしないようにする。

従業員立替金勘定は企業が従業員のために金銭を立て替えて支払った時に使う。また、従業員から金銭を借り入れたわけではないので、従業員借入金勘定も使わない。

**第2問** 1期から3期までの決算の資料にもとづいて、①純損益を繰越利益剰余金に振り替える仕訳および、②第3期の繰越利益剰余金勘定を完成させる問題である。

**【解答】**

問 1

借方科目	金額	貸方科目	金額
繰越利益剰余金	350,000	損 益	350,000

問 2

①	②	③	④
利益準備金	次期繰越	3,140,000	1,650,000

**【解説】**

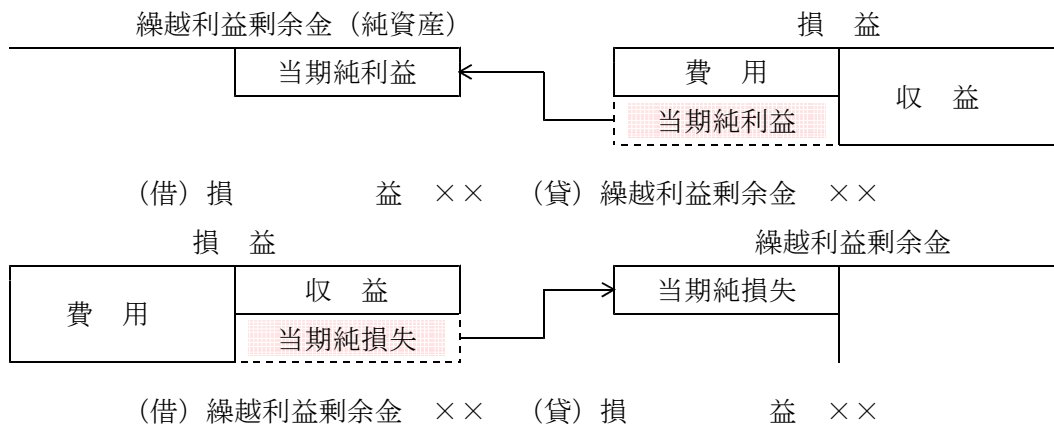
問 1

**確認**

決算振替仕訳（帳簿決算）

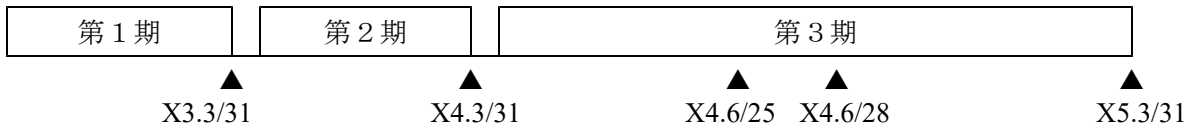
1. 収益の諸勘定を損益勘定に振り替える。
2. 費用の諸勘定を損益勘定に振り替える。
3. 損益勘定の残高（当期純損益）を繰越利益剰余金勘定に振り替える。

※当期純利益（損益勘定が貸方残高）のとき



当期純損失¥350,000 を計上したから、損益勘定の借方と繰越利益剰余金勘定の貸方に記入する。

問 2



〔仕訳〕

X3.3/31	(借) 損	益	2,000,000	(貸) 繰越利益剰余金	2,000,000
X4.3/31	(借) 繰越利益剰余金		350,000	(貸) 損	益 350,000
X4.6/25	(借) 繰越利益剰余金		110,000	(貸) 未払配当金	100,000
				利益準備金	10,000
X4.6/28	(借) 未払配当金		100,000	(貸) 普通預金	100,000
X5.3/31	(借) 損	益	1,600,000	(貸) 繰越利益剰余金	1,600,000

※ 「4/1 前期繰越 ④」は、X3.3/31 と X4.3/31 の繰越利益剰余金を加減して求める。

$$¥2,000,000 - ¥350,000 = ¥1,650,000$$

第3問 5月26日の合計試算表と5月下旬の取引から5月末の合計資産表と売掛金および買掛金の明細を作成する問題である。

【解答】

合 計 試 算 表

X8年5月31日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
1,067,500	現 金	525,200
7,170,000	当 座 預 金	5,665,000
3,505,000	売 掛 金	2,970,000
430,000	繰 越 商 品	
400,000	差 入 保 証 金	
1,200,000	備 品	
2,430,000	買 掛 金	2,978,000
50,000	前 受 金	110,000
40,000	所 得 税 預 り 金	80,000
	貸 倒 引 当 金	20,000
	備品減価償却累計額	150,000
	資 本 金	2,500,000
	繰越利益剰余金	500,000
	売 上	6,555,000
3,679,200	仕 入	40,000
1,000,000	給 料	
400,000	支 払 家 賃	
200,000	支 払 手 数 料	
96,500	発 送 費	
425,000	水 道 光 熱 費	
22,093,200		22,093,200

売掛金明細表

5月26日 5月31日

奈良商店	¥ 500,000	¥ 380,000
和歌山商店	200,000	155,000
	¥ 700,000	¥ 535,000

買掛金明細表

5月26日 5月31日

長崎商店	¥ 310,000	¥ 218,000
高知商店	590,000	330,000
	¥ 900,000	¥ 548,000

【解説】

【解答の手順】一例

1. X8 年 5 月 27 日から 31 日までの諸取引の仕訳を行う。

27 日	(借) 前 受 金	30,000	(貸) 売	上	80,000
	売 掛 金	50,000			
	-奈良商店-				
	(借) 発 送 費	1,000	(貸) 現	金	1,000
	(借) 売 掛 金	50,000	(貸) 売	上	50,000
	-和歌山商店-				
	(借) 発 送 費	800	(貸) 現	金	800
	(借) 給 料	500,000	(貸) 所得稅預り金		40,000
				当 座 預 金	460,000
28 日	(借) 仕 入	60,500	(貸) 買 掛 金	60,000	
				-長崎商店-	
				現 金	500
	(借) 仕 入	40,000	(貸) 買 掛 金	40,000	
				-高知商店-	
	(借) 水道光熱費	25,000	(貸) 当 座 預 金	25,000	
	(借) 現 金	90,000	(貸) 当 座 預 金	90,000	
29 日	(借) 売 掛 金	70,000	(貸) 売	上	70,000
	-奈良商店-				
	(借) 発 送 費	1,200	(貸) 現	金	1,200
	(借) 前 受 金	20,000	(貸) 売	上	55,000
	売 掛 金	35,000			
	-和歌山商店-				
	(借) 発 送 費	1,000	(貸) 現	金	1,000
	(借) 買 掛 金	40,000	(貸) 仕	入	40,000
	-高知商店-				

※発送代金¥700 は着払いの先方負担としたについて

当店は仕入先に対して資産・負債等一切生じないので仕訳ば不要である。

30 日	(借) 仕 入	38,700	(貸) 買 掛 金	38,000	
				-長崎商店-	
				現 金	700
	(借) 仕 入	40,000	(貸) 買 掛 金	40,000	
				-高知商店-	

31 日	(借) 水道光熱費	80,000	(貸) 当座預金	80,000
	(借) 当座預金	240,000	(貸) 売掛金	240,000
			-奈良商店-	
	(借) 当座預金	130,000	(貸) 売掛金	130,000
			-和歌山商店-	
	(借) 買掛金	190,000	(貸) 当座預金	190,000
	-長崎商店-			
	(借) 買掛金	300,000	(貸) 当座預金	300,000
	-高知商店-			
	(借) 当座預金	60,000	(貸) 前受金	60,000

2. 売掛金および買掛金の明細表の作成

売掛金明細表・買掛金明細表の作成をもとめる問題では、上記の仕訳に示したように売掛金および買掛金の下に商店名を記入し、以下のように商店名勘定に転記すると間違いが少ない。

〔売掛金元帳〕

5/26	500,000	5/31	240,000
27	50,000	}	5/31 残高¥380,000
29	70,000		

5/26	200,000	5/31	130,000
27	50,000	}	5/31 残高¥155,000
29	35,000		

〔買掛金元帳〕

5/31	190,000	5/26	310,000
}	5/31 残高¥218,000	28	60,000
		30	38,000

5/29	40,000	5/26	590,000
31	300,000	28	40,000
}	5/31 残高¥330,000	30	40,000

第4問 諸取引より、①記帳する補助簿の種類、②伝票記入、③月次決算における減価償却費の計算を問う問題である。

【解答】

問 1

補助簿 日付	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳	固定資産 台帳
1 日		○						○
10 日			○		○	○		
16 日	○			○				

問 2

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
( 売掛金 )	( 800,000 )	( 売上 )	( 800,000 )

問 3    ¥ (    15,000    )



【解説】

問 1

確認

現金出納帳	現金勘定の明細を記録するための補助簿 → <u>仕訳に「現金」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
当座預金出納帳	当座預金勘定の明細を記録するための補助簿 → <u>仕訳に「当座預金」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
商品有高帳	商品の受入れ、払出しおよび残高の明細を記録するための補帳簿 → <u>仕訳に「仕入」「売上」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
売掛金元帳	得意先ごとの売掛金の明細を記録するための補助簿 → <u>仕訳に「売掛金」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
買掛金元帳	仕入先ごとの買掛金の明細を記録するための補助簿 → <u>仕訳に「買掛金」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
仕入帳	仕入取引の明細を発生順に記録するための補助簿 → <u>仕訳に「仕入」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
売上帳	売上取引の明細を発生順に記録するための補助簿 → <u>仕訳に「売上」が出てきたとき、この帳簿に記録する</u>
固定資産台帳	固定資産を管理するために、それにかかわることがらを記録する補助簿 → <u>固定資産に関する仕訳（取得、減価償却、除却など）があったとき、この帳簿に記録する</u>

【解答の手順】

取引を仕訳し、仕訳した各勘定科目から、記録する補助簿を推定する。

1 日	(借) 備 品 900,000	(貸) 当座預金 900,000
	備 品 → 固定資産台帳	
	当座預金 → 当座預金出納帳	
10 日	(借) 仕 入 350,000	(貸) 前払金 50,000
		買掛金 300,000
	仕 入 → 仕入帳、商品有高帳	
	買掛金 → 買掛金元帳	
16 日	(借) 現 金 90,000	(貸) 売掛金 90,000
	現 金 → 現金出納帳	
	売掛金 → 売掛金元帳	

問 2

【解答の手順】

- ・取引を仕訳する。

28 日 (借) 現 金 50,000 (貸) 売 上 800,000  
           売 掛 金 750,000

- ・伝票の記入には二つの方法がある。

① 取引を現金取引と振替取引に分けて起票する方法

(借) 現 金 50,000 (貸) 売 上 50,000 … 入金伝票に起票

(借) 売掛金 750,000 (貸) 売 上 750,000 … 振替伝票に起票

② いったん全額を振替取引とし、その後、入金または出金があったとみなして起票する方法

(借) 売掛金 800,000 (貸) 売 上 800,000 … 振替伝票に起票

(借) 現 金 50,000 (貸) 売掛金 50,000 … 入金伝票に起票

- ・問題の入金伝票をみると、貸方の勘定科目を記入する「科目欄」が売掛金であることから、上記の②の方法で記入していることがわかる。
- ・したがって、振替伝票には 部分の仕訳にもとづき振替伝票を作成する。

問 3

- ・減価償却費の計算

$$¥900,000 \div 5 \text{ 年} \div 12 \text{ か月} = ¥15,000$$

- ・次の点に注意する。

① 「月次決算処理の一つとして」とあるので、1 か月分の減価償却費を計算する。

② 減価償却費の計算は取得原価をもとに行うので、引取運賃を加算した ¥900,000 で計算する。

第5問 決算整理前残高試算表と決算整理事項にもとづき、①決算整理後残高試算表の完成と、②当期純損益を問う問題である。

【解答】

問 1

決算整理後残高試算表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
2,129,000	現 金	
4,615,000	普 通 預 金	
6,435,000	売 掛 金	
1,765,000	繰 越 商 品	
400,000	( 前払 ) 家賃	
4,500,000	備 品	
3,000,000	貸 付 金	
	買 掛 金	4,620,000
	未 払 金	10,000
	( 未払 ) 消費税	1,653,000
	未 払 法 人 税 等	200,000
	( 前受 ) 利息	60,000
	貸 倒 引 当 金	64,350
	借 入 金	1,000,000
	備品減価償却累計額	1,800,000
	資 本 金	10,000,000
	繰越利益剰余金	2,109,000
	売 上	41,280,000
	受 取 利 息	30,000
	( 償却債権取立益 )	35,000
24,785,000	仕 入	
145,000	発 送 費	
2,400,000	支 払 家 賃	
350,000	租 税 公 課	
12,350	貸倒引当金繰入	
450,000	減 価 償 却 費	
11,025,000	そ の 他 の 費 用	
850,000	法 人 税 等	
62,861,350		62,861,350

問 2 当期純損益 円 ( 1,327,650 )

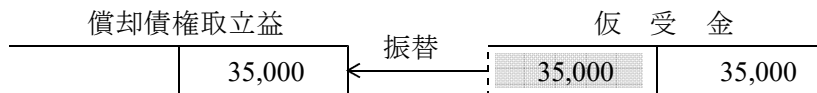
**【解説】**

[決算整理事項]

1. 仮受金勘定の整理

(借) 仮受金 35,000 (貸) 償却債権取立益 35,000

※・前期に貸倒処理した売掛金が当期に回収されたときは、償却債権取立益勘定（収益）で処理する。  
この問題では、回収したとき（借）現金 35,000（貸）仮受金 35,000 と仕訳をしたので、仮受金勘定から償却債権取立益勘定へ振り替える。



2. 3 月分の発送費の計上

(借) 発送費 10,000 (貸) 未払金 10,000

※ 3 月分の発送費が未払い（4 月に支払）であるので、発送費勘定（費用）と未払金勘定（負債）で処理する。

3. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 12,350 (貸) 貸倒引当金 12,350  
－費用－ －売掛金の評価勘定－

※ 貸倒引当金繰入額の計算

$$\begin{array}{r} \text{売掛金} \\ \text{¥6,435,000} \times 1\% \end{array} - \begin{array}{r} \text{貸倒引当金残高 (試算表)} \\ \text{¥52,000} \end{array} = \text{¥12,350}$$

4. 売上原価の計算

(借) 仕入 1,800,000 (貸) 繰越商品 1,800,000 … 期首商品棚卸高 (試算表「繰越商品」)  
 (借) 繰越商品 1,765,000 (貸) 仕入 1,765,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

5. 減価償却費の計上

(借) 減価償却費 450,000 (貸) 備品減価償却累計額 450,000  
－費用－

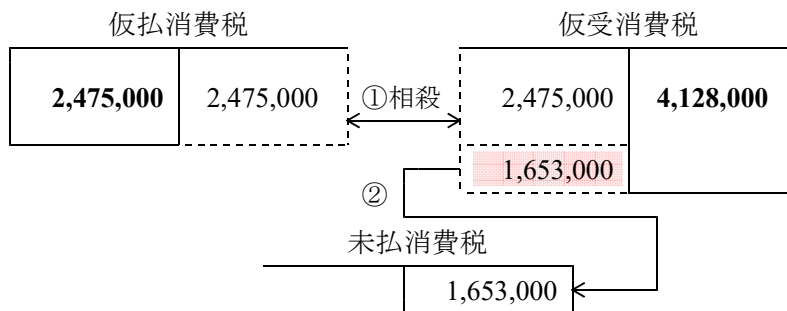
※減価償却費の計算 (定額法)

$$\begin{array}{r} \langle \text{備品} \rangle \\ \text{¥4,500,000} \end{array} \div \begin{array}{r} \text{取得原価} \\ \text{耐用年数} \\ \text{10年} \end{array} = \text{¥450,000}$$

6. 消費税の処理

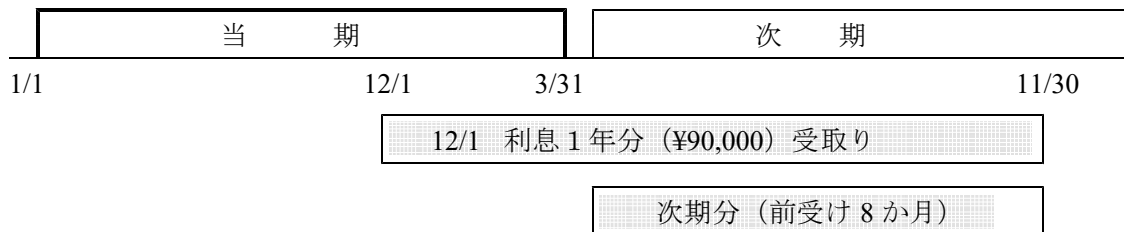
(借) 仮受消費税 4,128,000 (貸) 仮払消費税 2,475,000  
 未払消費税 1,653,000  
 - 負債 -

※残高試算表の①仮払消費税勘定（資産）と仮受消費税勘定（負債）を相殺し、  
 ②仮受消費税の残高を未払消費税勘定（負債）へ振り替える。



7. 前受利息の計上（収益の前受け）

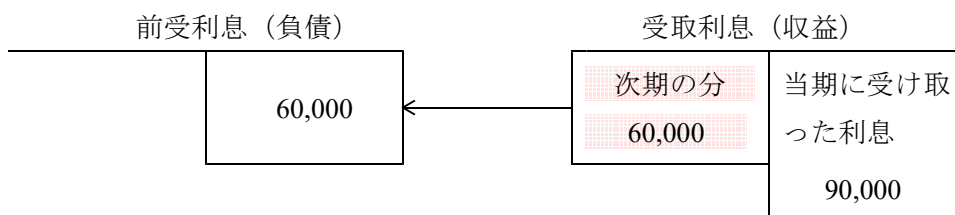
(借) 受取利息 60,000 (貸) 前受利息 60,000  
 - 負債 -



※ 前受利息の計算

$$\text{貸付金} \times 3\% \times \frac{8 \text{ か月 (4 月} \sim \text{11 月)}}{12 \text{ か月}} = \text{¥60,000}$$

※ 12 月 1 日に受取利息として記帳した¥90,000 には、次期の分¥60,000 も含まれているので、決算において正しい期間損益を計算するため、次期の分を受取利息勘定から前受利息勘定（負債）に振り替える。



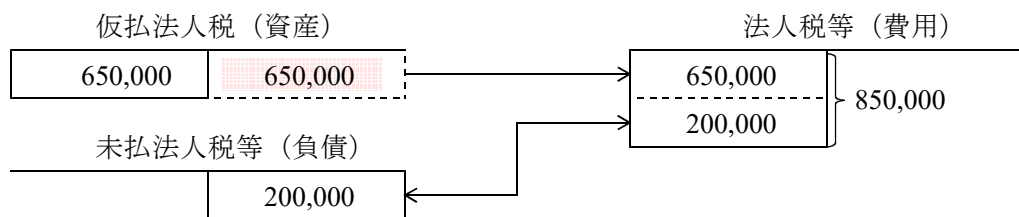
8. 仮払金勘定の整理／前払家賃の計上（費用の前払い）

**(借) 前払家賃 400,000 (貸) 仮払金 400,000**  
 - 資 産 -

※決算において、仮払金の家賃の前払いであることが判明したので、仮払金勘定から前払金勘定（資産）に振り替える。なお、建物を借りるという継続的なサービスの授受に関する支出であるから、前払金勘定ではなく前払家賃勘定に振り替える。

9. 法人税等の計上

**(借) 法人税等 850,000 (貸) 仮払法人税等 650,000**  
 - 費 用 - **未払法人税等 200,000**



問 1 決算整理後残高試算表の作成

[作成方法の一例]

1. 決算整理前残高試算表と決算整理事項の勘定金額を加算し、勘定ごとの残高を求める。

そのさい、

① 試算表の借方の金額に、整理仕訳の借方の金額は加算し、貸方の金額は減算する。

(借方と借方を加算し、貸方は減算する)

逆に、

② 試算表の貸方の金額に、整理仕訳の貸方の金額は加算し、借方の金額を減算する。

(貸方と貸方を加算し、借方を減算する)

③ 決算整理後残高試算表借方合計と貸方合計がともに¥62,861,350 で一致していることを確かめる。

問 2 決算整理後残高試算表の収益から費用を差し引いて当期純利益を求める。

$$\text{収益}\yen41,345,000 - \text{費用}\yen40,017,350 = \text{当期純利益}\yen1,327,650$$

	売	上	41,280,000	} 収益 ¥41,345,000
	受	取 利 息	30,000	
	(償却債権取立益)		35,000	
費用 ¥40,017,350	24,785,000	仕	入	
	145,000	発	送 費	
	2,400,000	支	払 家 賃	
	350,000	租	税 公 課	
	12,350	貸	倒 引 当 金 繰 入	
	450,000	減	価 償 却 費	
	11,025,000	そ	の 他 の 費 用	
	850,000	法	人 税 等	